

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873600377
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム白雲
所在地	愛媛県大洲市白滝甲669番地4
自己評価作成日	平成22年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の大きな窓から、雄大に流れる肱川を眺めることができ、四季折々に姿を変える山々や、敷地内の桜や紅葉が季節を感じさせてくれます。  
 地元の保育園児、婦人会の方々との交流や、地域行事のうら盆まつりでは、笹飾りや、作りものを出品しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設6年目であり、利用者も落ち着いた生活を送っている。代表者が診療所の医師で、管理者、ホーム長は看護師であるため、医療的に充実した事業所であり職員研修にも力を入れている。利用者の高齢化に伴い、家族等の希望があれば、医師の指示で終末ケアにも取り組んでいる。管理者は、運営推進会議を利用し、地域交流にも積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム白雲

(ユニット名) 第1ユニット

記入者(管理者)

氏名 丸本真由美

評価完了日 22年 7月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 認知症ケアの理念についての勉強会を行い、法人の運営理念を明確化して、「その人らしさ」を大切に出来るように介護に取り組んでいる。ユニット毎に理念を掲げて、職員で共有して日々の介護に生かせるようにしている。</p> <p>(外部評価) 代表者は理念を大切に、日頃より機会があるたびに職員に理念等について質問し、意識づけを行っている。職員は、日々の業務に当たる時の心構えにし、落ち着いた温かい介護に終始しており、利用者も落ち着いた生活を送っているのが伺える。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 「白雲茶屋」と称して、隣近所の方にきていただいて、お花見を行い、昨年よりも顔見知りの方が増えた。地域の祭りへの参加、教育機関との交流、地元婦人会の方々との交流、地元商店への買い物等。利用者に地域とのつながりを感じてもらっている。日常的交流は、まだまだであるが、気軽に挨拶はできている。</p> <p>(外部評価) ホーム敷地への道が急な坂になっており、日常的な散歩で地域に出かけることが難しい。そのため、ホームの庭を活用し近所の方を招いてのお茶会や運動会、地域ボランティアの読み聞かせ、婦人会との交流等、利用者との交流を積極的に行っている。</p>	運営推進会議を利用し、地域関係者と情報交換し、地域密着型サービスの意義を理解してもらっている。地域の婦人会との交流に取り組んでおり、利用者と一緒に調理する事等、相談しており、今後ますます、関係が広がってくるのを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) ホーム内行事に参加していただいた一部地域の人には、認知症の人の理解や支援について、話をする機会を持つことができた。が、地域貢献はまだ不十分なので、継続していきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 毎月の行事報告や、評価への取り組みについて報告している。区長さんから地域行事の情報、民生委員さんから地域防災会議への出席の機会をいただけた。他グループホームの災害時への取り組みを訊くことで、避難訓練の参考となった。	
			(外部評価) 2か月毎に開催し、区長や民生委員からの地域の情報を活用しホームの取り組みに活かしている。また、外部評価についても話し合わせ、今後のホームの取り組みについての目標達成計画についても報告され、会議のメンバーで協力して取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市のサービス担当者会議に出席して、事例研究、学習会、情報交換をしている。 ケアプランを提出して、質問や助言をもらっている。 生活保護係りの担当者との連絡。	
			(外部評価) 市のサービス担当者会議へ出席したり、利用者の介護計画を市に提出したり、密に協力関係が築けている。 生活保護の担当や日常生活自立支援事業の担当との情報交換も行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束マニュアルをつくり、禁止となる具体的な行為についての勉強会をしている。 玄関は日中、施錠しないようにして、身体拘束もしていない。	
			(外部評価) 医療的な処置のため、やむを得ず身体拘束をする場合には、家族と充分話し合いを持ち了解を得て行っており、生命の危機が無いと判断された場合には中止している。管理者、職員の意識も高く、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新聞の記事や、本の事例などから、勉強会をもっている。職員同士、日頃から気をつけている。利用者への言葉の暴言にも気をつけている。管理者は、職員の精神状態にも気を配るようにして、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用している方への、必要時の連絡支援をしている。職員の研修会への参加。利用を進めるケースがあったが、家族の決心がつかず利用に至らなかった。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が、書面をもって、わかりやすく、丁寧に説明をして、理解、同意を得るようにしている。改定時は、新しく書類を作成して、再度、説明、同意を得るようにしている。一方的な説明にならないように、不安や疑問点を必ず尋ねている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約時に苦情相談先について必ず説明している。意見箱の設置。利用者の言葉や、日頃の様子から意見や要望を汲み取るようにしている。家族の面会時には、世間話等も含め、話をするようにしている。家族会や、運営推進会議への参加を呼び掛けている。介護相談員さんとの意見交換。 (外部評価) 職員の異動も少なく、家族とも顔なじみで、面会のたびに意見や要望等話してもらっている。家族の運営推進会議の出席は1名と少ないが、会議録にしてユニットの掲示板に掲示し家族等が閲覧できるようにしている。	面会時や行事の時に家族からの意見や要望は聞いているが、家族会等の設置は無く、積極的な意見交換の機会は少ない。家族からの積極的な関わりができる機会を設けて、介護のチームの一員である意識が芽生えるような取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月の業務カンファレンスで、意見を出してもらい、法人のホーム長会議で、話し合いの場が設けられている。 毎月、副部長の訪問もあって、施設の困っている点など取り上げてもらって、更に話しやすくなっている。</p> <p>(外部評価) 法人の副部長は現場の経験者であり、職員も話しやすく、意見も出しやすいとの思いで月1回の定期訪問を設けた。利用者への対応の仕方や備品の購入等の意見や提案が行われ運営に反映されている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 努力と実績次第で、研修に参加する機会や、昇進する機会がある。 時間外手当、資格給の支給。 産休、育児休暇の後、職場復帰できる体制をとっている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 習熟度にあった研修会、法人内外の研修会に参加している。 介護支援専門員、介護福祉士等の資格試験への取り組み</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム協会に加入し、研修会等に参加。 市の研修会に参加し、他グループホームとの情報交換。他グループホームの運営推進会議への参加。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 本人の気持ち、思いに耳を傾けるようにしている。 見学に来ていただいて、入居者の方、職員と一緒にお茶を飲んだり、話したりして雰囲気を感じてもらっている</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の話をしっかり聞くようにしている。本人と家族の思いの違いや、他の家族の思いなども聴いている。見学に来ていただいて、丁寧で分かりやすい説明をするように、書面でもしている。遠慮せずに、話していただくよう声掛けして、要望は必ず訊いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前調査を行い、本人、家族、担当者と話をし、入居に適しているか相談している。「その時」まず必要な支援については、ケアマネジャーさんともよく話し合うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩であることを念頭に置いて、生活歴を生かして、いろいろ教えてもらっている。「いっしょに過ごす」ケアを心がけている。自然に喜怒哀楽が表わせるような関係を作っている。手伝いをしてもらった後は、笑顔で「ありがとう」と言っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月、生活状況、健康状態、連絡事項、本人の気持ちなど手紙に書いて、様子を理解してもらうようになっている。面会を促したり、家族との外出や外泊の支援をしている。面会時は、ゆっくり過ごしてもらえよう、お茶を出して、コミュニケーションを取ってもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地元の行事へ参加して、馴染みの人に声をかけてもらったり、面会に来ていただいている。 馴染みの場所への外出や、ドライブを利用してのふろさと訪問をしている。  (外部評価) なつかしい場所へドライブをしたり、誕生日には実家に行ったりと利用者の思いに応えている。馴染みの場所に行くと利用者の足の動きも早くなり、いきいきとしてくる。そういった取り組みを大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 相性の良し悪しを考えて、テーブル席を決めている。難聴の人には職員が間に入り、会話を取り持っている。それぞれに役割分担があって、お互いに協力している。昼食後には、皆で畳の所で、足上げをして、休んでいる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院をしている人には、お見舞いに行っている。必要に応じて、以前の担当ケアマネジャーさんに連絡して、相談や支援のお願いをしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりに関心をはらって、日常生活の関わりの中で思いをくみ取るようにしている。困難な場合は、日頃の会話や、行動、表情などから、察している。本人が発した会話や思いは、そのまま介護記録に残し、皆で共有して、カンファレンスで検討している。 (外部評価) 声かけを工夫したり利用者の様子を観察し、毎日の連絡ノートや業務ノートに聴取した情報や職員の気付き等を記録している。そのノートは必ず全員がチェックしている。毎月の検討会議では、ユニットの職員全員で意見を出し合い、利用者の思いや意向の把握に努め、記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 訪問調査時のアセスメント、入所時の情報提供書から、職員全員が理解するようにしている。本人、家族からも再度よく聞いて、有する力を発揮しながら生活できるように支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの一日の生活の流れを把握している。一緒にすることで、出来る力、わかる力の状態変化に気をつけている。認知症の進行に伴い、出来る事の質や量が減少している。介護記録に記入して、毎日、申し送りをしている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 利用者や、家族の思いや意向を収集、確認して、ケアカンファレンスで課題を話し合い、受け持ち担当者、ケアマネジャー、計画作成担当者が作成している。モニタリング表に記入、活用できるよう取り組んでいる。利用者の状態に変化があった時は、新しい介護計画を作成、ケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 毎月ユニットの職員全員でカンファレンスを行い、利用者一人ひとりについての情報を検討し共有している。3～6か月ごとにモニタリングをし、介護計画の変更や更新に活用している。様式についてはまだ検討中である。更新された介護計画は本人、家族等に説明し、署名してもらっている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 介護日誌や、申し送りノートなどで、職員が情報を共有しながら、ケアカンファレンスなどで見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人、家族の希望、医師の同意の下、療養マッサージを導入している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 月1回のボランティア（読み聞かせ）の訪問 地元商店への買い物、美容院の利用 教育機関（保育所、小学校、中学校）との交流 地域の祭りへの、作りものの出品等、生活を楽めれるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人、家族の同意の下、協力医療機関の医師の往診を 月2回受けていて、健康管理に努めている。専門医を 受診する時は、職員も同行し連携を図っている。 家族が受診に協力してくれる人もいる。</p> <p>(外部評価) 母体が診療所であり、入居時に利用者や家族の意向を 聞いて適切に対応している。常勤の看護師を配置し、 診療所の看護師には毎日健康状態について報告、相談 し連携が取られている。血液検査や、レントゲンも必 要に応じて行っている。受診する医療機関が遠方の場 合は家族に協力してもらっている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 毎日、健康状態の観察をしている。変化がある時は、 施設内の看護師に連絡して、医療連携機関の看護師、 医師に連絡、受診または往診してもらっている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時情報提供書を書いて、利用者さんを理解しても らっている。お見舞いに行ったり、その都度、主治医 に経過を伺い、退院に備えている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化や終末期に向けた指針を作成して、入居時や家 族会で説明、同意を得ている。重度化の段階に応じ て、その都度、本人、家族、医師と話し合い、職員カ ンファレンスをして、方針を共有する。「看取りにつ いて」の勉強会を行い、医療との連携の下、支援が出 来るように、取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 代表者が医師であり、医療との連携も取りやすく、医 師の指示にて利用者、家族の希望に添えている。ホー ムの常勤の看護師、診療所の看護師との連携もあり、 現在も終末期ケアに取り組んでいる。職員は勉強会を 行い医療と協力し利用者が安心して終末を迎えられる よう取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に消防署指導による、救急救命講習を受けている。急変時、事故発生時対応マニュアルを作成して、対応している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災、地震を想定した避難訓練を行っている。災害時連絡網に、消防団長、地域住民に入ってもらい協力をお願いしている。地域防災会議へ参加させてもらった。 訓練で身につけていけるようにする。 (外部評価) 緊急時の連絡網に消防団長や近隣者も入ってもらい、協力が得られるようお願いしている。年2回消防署立会いの避難訓練を行い、自主訓練も年2回行っている。防災については、運営推進会議でも議題に上げて話し合われている。居室の家具にも地震に備えて、転倒予防の器具を設置している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者個々の性格を理解し、その人に合った声掛けをしている。失禁している場合にも、他者には気付かれないよう声掛け、誘導を行い、本人の気分を損ねないように対応している。利用者が気分を損ねた時は、その原因、理由を職員で話し合い、同じ事にならない様に気をつけている。 (外部評価) 利用者によっては、親しみのある呼び名で呼ばれている方もいるが、利用者や家族等との信頼関係の上に成り立っている。職員は、研修や勉強会で学び、利用者個々の性格や健康状態を把握し、一人ひとりの状態に合わせた、思いやりのある対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人に分かるように説明して、入浴、外出、食べたい物等、自分で決めてもらっている。決められない人には、どちらか選んでもらうような場面を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日どのように過ごしたいか、希望を言える人は少ないが、それぞれに生活のリズムが出来ていて、自分のペースで自由に過ごされていると思う。その日の状況によるけれども、その人のペースに合わせた介護をしている。無理強いはしないようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出する時や、更衣する時など、利用者さんと一緒に服を選んで、着ていただいている。 希望する美容院へ、毛染めの予約をいれている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの力量に応じて、準備や後片付けを手伝ってもらっている。ランチョンマットを敷いて、盛り付けも見た目にも、食欲をそそるように気配りしている。行事や誕生会の時など、好みの物を聞いて作っている。旬の食材を使った献立。 (外部評価) 毎日のメニューは決まっているが、利用者の希望を聞いて変更することもある。利用者の性格や心身の状態も違っており、個々の状態に合わせて、できる事は無理なく行ってもらっている。刻みやミキサー食により食べやすく工夫し、介助にて食事を摂る利用者もいるが、よく声かけもできている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の食事量、水分量を一目でわかるようチェックしている。食べる量や出し方も、個人によって分けている。毎月の体重測定、BMIのチェック。 お茶をあまり飲まない人には、他の飲み物をすすめている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 週1回ポリデントを行い、歯磨きチェック表に記入している。歯磨きを声掛けのみで出来る人、最後まで見守りの必要な人、出来ない人は、介助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) その人の排泄パターンを把握して、早目のトイレ誘導をしている。尿意の訴えがない人も、リハビリパンツを使用して、トイレで排泄してもらえるよう支援している。個々に応じた排せつ用品を使用している。	
			(外部評価) 日中の個別のトイレ誘導により、失禁することは少ない。トイレの場所が分からない利用者には声かけをし、頻尿の利用者には1時間おきにトイレ誘導したりと、個々に合った方法で個別に対応している。夜間も安眠できるように尿とりパットを使用し、様子をみて声かけ、誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の方は、職員全員に状況が分かるよう記録して、センナ茶、牛乳、薬などで、個々に対応している。毎日、朝の健康体操、午後のラジオ体操など体を動かしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望やペースに合わせた、入浴時間の設定。好みのお湯の温度にして、ゆっくりと入浴できるようにしている。	
			(外部評価) 家庭用のユニットバスに手すりやシャワーチェアを使用して、職員1名で入浴の介助を行っている。利用者によっては本人希望で、シャワーでの入浴を行っている方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、適度にお手伝いや、運動などして、動いているので、夜間、安眠できていると思う。部屋や廊下の照明、音、温度などにも気をつけている。昼間も、表情や行動を観察して、休息を促している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効能、副作用について勉強会を行い、共通の認識を持つようになっている。内服薬の変更時は、ノートに記入して全員が把握するようになっている。各、利用者の状態に合わせて服薬支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の準備や後片付け、洗濯物干しなど役割を持って生活してもらっている。貼り絵や、カレンダー作りをしたり、中庭でお茶を飲んだりして気分転換をはかっている	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望時は、買い物やドライブに出かけている。家族に連絡して、散髪やお墓参りに出かけるよう協力してもらっている。全員での外出行事では、地域のボランティアさんに協力していただいた。	
			(外部評価) 1日1回は外に出ることを目標にしている。毎日、午前中とおやつ前に下肢筋力維持のために、ラジオ体操や歩行訓練のリハビリ等を行い、外出できる筋力の維持向上に努めている。ホーム外に出る時は車での外出で、月に数回職員が企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買物の時は、職員が傍について、利用者さんに財布を持ってもらって、一緒に支払いをするようになっている。自己管理している人は、見守りしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者さんの希望がある時は、電話の取り次ぎをして、椅子に座って、ゆっくり話してもらっている。手紙の表書きをして、投函したり、希望時は、代読している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共有空間は、カーテンを使用して採光の調節をし、室温の調節、窓の開閉等、気をつけて毎日行っている。壁面には、季節の貼り絵をして、花を飾るようにしている。広い窓からは、自然の風景を感じることが出来る。対面式台所から、食事を準備している、音や匂いを感じることが出来る。</p> <p>(外部評価) 室内の壁紙も白地に花柄で、柔らかく落ち着いた感じである。エアコンの調節は、職員が小まめに様子を見て行っている。庭には芝生や草花を植え、利用者が楽しんで散歩できるようにしている。また、畑には季節の野菜等植えている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 廊下に置いた椅子や、畳の上、2Fの研修室など好きな場所で過ごしてもらっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 鏡台や椅子、テレビ、ラジオなど好みの物を持ってきてもらっている。家族の写真や、絵、位牌など、なじみの物を自由に飾ってもらっている。タンスの中にしまい込む人、ダンボールをそのまま積んでいる人、自分らしく過ごしてもらっている。</p> <p>(外部評価) 清潔な室内はきれいに整理整頓され、ベット、整理ダンス、洋服ダンス、カーテンはホームの備品として準備されている。利用者はおもしろおもしろに、自分の持ち物を配置し、自分の住まいとしての個性も感じられるように過ごされている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 廊下、トイレ、風呂場などに手摺りがあり、安全な環境にしている。各居室には、顔写真を貼り、トイレの表示も分かりやすくしている。対面式キッチンで、お互いの顔が見れて一緒に作業ができる。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873600377
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム白雲
所在地	愛媛県大洲市白滝甲669番地4
自己評価作成日	平成22年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の大きな窓から、雄大に流れる肱川を眺めることができ、四季折々に姿を変える山々や、敷地内の桜や紅葉が季節を感じさせてくれます。  
 地元の保育園児、婦人会の方々との交流や、地域行事のうら盆まつりには、笹飾り、作りものを出品しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設6年目であり、利用者も落ち着いた生活を送っている。代表者が診療所の医師で、管理者、ホーム長は看護師であるため、医療的に充実した事業所であり職員研修にも力を入れている。利用者の高齢化に伴い、家族等の希望があれば、医師の指示で終末ケアにも取り組んでいる。管理者は、運営推進会議を利用し、地域交流にも積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム白雲

(ユニット名) 第2ユニット

記入者(管理者)  
氏名 丸本真由美

評価完了日 22年 7月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 認知症ケアの理念についての勉強会を行い、法人の運営理念を明確化して、「その人らしさ」を大切に出来るように介護に取り組んでいる。ユニット毎に理念を掲げて、職員で共有して日々の介護に生かせるようにしている。</p> <p>(外部評価) 代表者は理念を大切に、日頃より機会があるたびに職員に理念等について質問し、意識づけを行っている。職員は、日々の業務に当たる時の心構えにし、落ち着いた温かい介護に終始しており、利用者も落ち着いた生活を送っているのが伺える。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 気軽に声掛けあったり、立ち寄ってもらえるような付き合いが出来るよう努めている。お花見会を開いて、近所の方に気軽に参加してもらえるようにして、顔見知りの方が増えた。地域行事にも、積極的に参加している。</p> <p>(外部評価) ホーム敷地への道が急な坂になっており、日常的な散歩で地域に出かけることが難しい。そのため、ホームの庭を活用し近所の方を招いてのお茶会や運動会、地域ボランティアの読み聞かせ、婦人会との交流等、利用者との交流を積極的に行っている。</p>	運営推進会議を利用し、地域関係者と情報交換し、地域密着型サービスの意義を理解してもらっている。地域の婦人会との交流に取り組んでおり、利用者と一緒に調理する事等、相談しており、今後ますます、関係が広がってくるのを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域との交流も浸透しつつあり、これを続けていくことが出来るようにしていきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 年6回開催できている。利用者さんへの日々のサービス等を報告し、意見をもらって、生活の中に取り入れている。評価への取り組み状況も報告している。	
			(外部評価) 2か月毎に開催し、区長や民生委員からの地域の情報を活用しホームの取り組みに活かしている。また、外部評価についても話し合わせ、今後のホームの取り組みについての目標達成計画についても報告され、会議のメンバーで協力して取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市のサービス担当者会議に出席して、事例研究、学習会、情報交換をしている。 ケアプランを提出して、質問や助言をもらっている。	
			(外部評価) 市のサービス担当者会議へ出席したり、利用者の介護計画を市に提出したり、密に協力関係が築けている。生活保護の担当や日常生活自立支援事業の担当との情報交換も行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 定期的に勉強会を開き、再確認している。 玄関は日中、施錠しないようにして、拘束のないケアに取り組んでいる。マニュアルを作成している。	
			(外部評価) 医療的な処置のため、やむを得ず身体拘束をする場合には、家族と充分話し合いを持ち了解を得て行っており、生命の危機が無いと判断された場合には中止している。管理者、職員の意識も高く、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を開き、虐待について話し合っている。虐待がないように、職員全体で気をつけている。特に、言葉の虐待には気を付けるよう、自覚を促している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度利用者がいて、定期的な訪問や、必要時には連絡をしている。職員全体で制度の理解に心掛け、その都度勉強していく必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が、書面をもって、わかりやすく、丁寧に説明をして、理解、同意を得るようにしている。改定時は、新改定書を作成して、説明、同意を得ている。不安や、疑問点を必ず尋ねている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約時に苦情相談先について必ず説明している。意見箱の設置。面会時には、家族と話して、意見、要望等を訊いている。 介護相談員さんとの意見交換。 (外部評価) 職員の異動も少なく、家族とも顔なじみで、面会のたびに意見や要望等話してもらっている。家族の運営推進会議の出席は1名と少ないが、会議録にしてユニットの掲示板に掲示し家族等が閲覧できるようにしている。	面会時や行事の時に家族からの意見や要望は聞いているが、家族会等の設置は無く、積極的な意見交換の機会は少ない。家族からの積極的な関わりができる機会を設けて、介護のチームの一員である意識が芽生えるような取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 業務カンファレンスを月1回行い、意見交換をしている。法人のホーム長会議で、話し合いの場が設けられている。毎月、副部長の訪問もあって、施設の困っている点など取り上げてもらっている。</p> <p>(外部評価) 法人の副部長は現場の経験者であり、職員も話しやすく、意見も出しやすいとの思いで月1回の定期訪問を設けた。利用者への対応の仕方や備品の購入等の意見や提案が行われ運営に反映されている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員の意欲と実績により、研修会への参加や、昇進の機会がある。時間外手当、資格給の支給。産休、育児休暇の後、職場復帰できる体制を取っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 習熟度に応じて、法人内外の研修会に参加している。資格試験への取り組みを進めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム協会へ加入し、研修会に参加。市の研修会に参加して、他のグループホームとの情報交換。他グループホームの運営推進会議への参加。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 本人から話を聞いている。ホーム見学をしていただき、ホーム内の雰囲気を感じてもらい、本人が安心できる空間を作っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査に同席していただき、家族の話をしっかり聞くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前調査を行い、本人、家族、担当者と話して、入居に適しているか相談している。「その時」まず必要な支援については、ケアマネジャーさんともよく話し合うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) お互いに支え合い、常に色々な事を感じられるような関係作りに努めている。人生の中で、培ってきた知恵を教えてもらっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、近況をお伝えし、毎月の状態を手紙でお伝えして、理解してもらうようにしている。外出や、外泊の支援をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) その方の故郷など、馴染みの場所へのドライブ等行っている。地元の行事に参加して、馴染みの人に声をかけてもらったり、面会にきていただいている。  (外部評価) なつかしい場所へドライブをしたり、誕生日には実家に行ったりと利用者の思いに応えている。馴染みの場所に行くと利用者の足の動きも早くなり、いきいきとしてくる。そういった取り組みを大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食後等、すぐに自室に戻られることのないように、利用者間に職員が入って、会話のきっかけを作っている。皆で楽しく過ごせるようなレクリエーションの企画。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院をされた方には、お見舞いに行っている。担当のケアマネジャーさんに連絡している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の思い、要望を日常の会話などから把握して、職員間で共有し、ケアに生かせるように努めている。本人の意思を尊重し、ケアを行っている。	
			(外部評価) 声かけを工夫したり利用者の様子を観察し、毎日の連絡ノートや業務ノートに聴取した情報や職員の気付き等を記録している。そのノートは必ず全員がチェックしている。毎月の検討会議では、ユニットの職員全員で意見を出し合い、利用者の思いや意向の把握に努め、記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時の情報提供書から理解するようにしている。本人、家族からもこれまでの暮らし方をよく聞いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活パターンを把握し、利用者の生活のリズムに合わせて、無理のない対応を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回ケアカンファレンスを行い、現在の状態について話し合い、介護計画を立て、日々の介護に活かすようにしている。モニタリング表に記入し、活用できるよう取り組んでいる。  (外部評価) 毎月ユニットの職員全員でカンファレンスを行い、利用者一人ひとりについての情報を検討し共有している。3～6か月ごとにモニタリングをし、介護計画の変更や更新に活用している。様式についてはまだ検討中である。更新された介護計画は本人、家族等に説明し、署名してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の介護記録に記入し、他の職員にもケアの気づき、変化等伝わるようにしている。朝と夕の申し送りを行い情報を全員で共有できるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 療養マッサージの利用。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 毎月のボランティアの受け入れ。 保育所、小学校の交流。職場体験受け入れ。 地域の行事、うら盆祭り等への参加。 消防署指導による火災避難訓練の実施。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の希望する病院を受診している。事業所と 契約している病院から、月2回往診があり、必要に応 じて受診できるようにしている。 市外の病院受診では、家族が協力してくれる。  (外部評価) 母体が診療所であり、入居時に利用者や家族の意向を 聞いて適切に対応している。常勤の看護師を配置し、 診療所の看護師には毎日健康状態について報告、相談 し連携が取られている。血液検査や、レントゲンも必 要に応じて行っている。受診する医療機関が遠方の場 合は家族に協力してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎朝、病院の看護師から、健康状態についての電話が あり、介護職員は報告を行い、必要に応じて、指示を 受けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合は、情報提供書を書いて、利用者さんの 理解をしてもらっている。お見舞いに行き、その都 度、主治医に経過を伺い、退院に備えている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や、看取りに向けた指針を作成して、説明して いる。本人、家族、主治医と話し合い、意向に沿っ て、その時、ホームでできる支援を行っている。「看 取りについて」勉強会を行い、医療連携の下、支援が できるように、取り組んでいる。  (外部評価) 代表者が医師であり、医療との連携も取りやすく、医 師の指示にて利用者、家族の希望に応じている。ホー ムの常勤の看護師、診療所の看護師との連携もあり、 現在も終末期ケアに取り組んでいる。職員は勉強会を 行い医療と協力し利用者が安心して終末が迎えられ るよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に消防署指導による、救急救命講習を受けている。マニュアルを作成して、対応している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災、地震を想定した避難訓練を行っている。災害時連絡網に、消防団長、地域住民に入ってもらい、協力をお願いしている。訓練で身につけていけるようにする。 (外部評価) 緊急時の連絡網に消防団長や近隣者も入ってもらい、協力が得られるようお願いしている。年2回消防署立会いの避難訓練を行い、自主訓練も年2回行っている。防災については、運営推進会議でも議題に上げて話し合われている。居室の家具にも地震に備えて、転倒予防の器具を設置している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者個々の性格を理解し、その人に合った声掛けをしている。失禁している場合にも、プライバシーを損ねない様に対応している。職員同士、言葉かけについては、お互いに気をつけている。 (外部評価) 利用者によっては、親しみのある呼び名で呼ばれている方もいるが、利用者や家族等との信頼関係の上に成り立っている。職員は、研修や勉強会で学び、利用者個々の性格や健康状態を把握し、一人ひとりの状態に合わせた、思いやりのある対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人に気持を尋ねるようにしている。入浴、食事、外出など、本人が決めたり、選んでもらえるような場面を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の希望に沿って、外出や買い物など、出来る範囲で支援している。それぞれ、自分のペースで自由に過ごされている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 希望する美容院へ連絡して、髪染めやパーマ等されている。外出時は、お出かけ用の服を着てもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの力量に応じて、準備や後片付けを、職員と一緒にしている。行事食や誕生日会食など、好みの物を聞いて作っている。  (外部評価) 毎日のメニューは決まっているが、利用者の希望を聞いて変更することもある。利用者の性格や心身の状態も違っており、個々の状態に合わせて、できる事は無理なく行ってもらっている。刻みやミキサー食により食べやすく工夫し、介助にて食事を摂る利用者もいるが、よく声かけもできている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の食事量、水分量をチェックしている。刻み食や、ミキサー食など、状態に応じて提供している。 毎月の体重チェック、BMIのチェック。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 週1回ポリデントを行い、歯磨チェック表に記入している。歯磨きを声掛けのみで出来る人、最後まで見守りの必要な人、出来ない人は介助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中、夜間帯とも布のパンツもしくはリハビリパンツを使用し、その都度の声掛け、誘導する事で、排泄の自立にむけた支援をしている。	
			(外部評価) 日中の個別のトイレ誘導により、失禁することは少ない。トイレの場所が分からない利用者には声かけをし、頻尿の利用者には1時間おきにトイレ誘導したりと、個々に合った方法で個別に対応している。夜間も安眠できるように尿とりパットを使用し、様子をみて声かけ、誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の排便の有無、量を確認し、記録している。便秘にならないように、午前、午後のリハビリ体操は欠かさずに行い、水分もこまめに摂取している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) バイタル測定後、その日の体調や、希望を聞き、入浴している。入浴チェック表を見て、入浴の間隔が空くことのないように心掛けている。好みの湯加減と、時間にしている。	
			(外部評価) 家庭用のユニットバスに手すりやシャワーチェアを使用して、職員1名で入浴の介助を行っている。利用者によっては本人希望で、シャワーでの入浴を行っている方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 清潔な布団、シーツに高さのあった枕、部屋の温度、湿度に気をつけて、安心して眠れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効能、副作用についての勉強会を行い、共通の認識を持つようにしている。各、利用者の状態に合わせた服薬支援をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりが出来ることをするように呼びかけ、又、協力してする楽しさも感じられるよう、声掛けしている。季節毎の行事も大切にしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望時は、買い物やドライブに出かけている。前もって計画を立て、できるだけ全員で外出、出来るように支援している。	
			(外部評価) 1日1回は外に出ることを目標にしている。毎日、午前中とおやつ前に下肢筋力維持のために、ラジオ体操や歩行訓練のリハビリ等を行い、外出できる筋力の維持向上に努めている。ホーム外に出る時は車での外出で、月に数回職員が企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物の時は、職員が傍らについて、利用者さんに財布を持ってもらって、支払の支援をしている。自己管理している人は、見守りしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者さんの希望がある時は、電話の取次ぎをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共有空間は、カーテンを使用して採光の調節をし、室温の調節、窓の開閉等、毎日行っている。壁面には、季節の貼り絵をして、花を飾るようにしている。広い窓からは、自然の風景を感じることが出来る。対面式台所からは、食事を準備している音や匂いを感じることが出来る。</p> <p>(外部評価) 室内の壁紙も白地に花柄で、柔らかく落ち着いた感じである。エアコンの調節は、職員が小まめに様子を見て行っている。庭には芝生や草花を植え、利用者が楽しんで散歩できるようにしている。また、畑には季節の野菜等植えている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 畳の上や、研修室に置いてある椅子など、好きな場所で過ごしてもらっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族の写真、絵、位牌など、馴染みの物を自由に置てもらっている。それぞれ、個性ある部屋になっている。</p> <p>(外部評価) 清潔な室内はきれいに整理整頓され、ベット、整理ダンス、洋服ダンス、カーテンはホームの備品として準備されている。利用者はおもいおもいに、自分の持ち物を配置し、自分の住まいとしての個性も感じられるように過ごされている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 廊下、トイレ、風呂場などに手摺があり、安全な環境にしている。各個室には、顔写真をはり、トイレの表示も分かりやすくしている。対面式キッチンで、お互いの顔が見れて一緒に作業が出来る。</p>	